

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

3年 看護科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

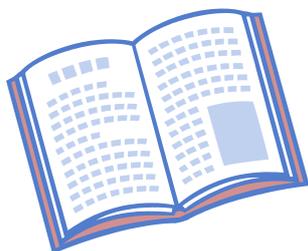
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

看護科

◎科の目標

- ・高校3年間と専攻科2年間を合わせた5年一貫教育による看護師の養成を目指します。
- ・「基礎看護」「人体と看護」「疾病と看護」「生活と看護」「成人看護」「老年看護」「母性看護」「小児看護」「看護臨地実習」「保健統計」等を学習します。

◎資格取得、進路

- ・日本赤十字社救急法救護員受験資格
- ・本校専攻科、大学などへの進学

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	国語総合			現代社会	数学Ⅰ		物理基礎	化学基礎	体育	芸術Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	家庭基礎	基礎看護		人体と看護			看護情報活用		L H R												
2年	現代文B	日本史A	数学A	化学	生物基礎	体育	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅰ	基礎看護		人体と看護	疾病と看護		生活と看護	成人看護	老年看護	看護臨地実習		L H R													
3年	現代文B	世界史A	化学	生物基礎	体育	コミュニケーション英語Ⅱ	基礎看護	疾病と看護	生活と看護	成人看護	母性看護	小児看護	保健統計	看護臨地実習				L H R														

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	現代文B	2	3年	看護科	全員

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
授業計画	1学期 ・小説「話を聞かせて」等・評論「記憶のゆがみ」等 2学期 ・詩「食事」等・小説「山月記」等・ 3学期 ・小説「卒業」等・短歌と俳句「折々のうた」
学習方法と アドバイス	予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。 授業を大切に積極的に参加し、自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめて発表する。 辞書を引くことや音読・朗読を習慣化する。 復習やテスト前の学習に役立つように丁寧なノート作りをする。 提出物を丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。 新聞を読むことを習慣化するなど、日常生活の中に、読む・書く・話す・聞くを積極的に取り入れる。
評価の観点と 方法	「現代文B」では以下の5つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。 【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させているか。 【書く能力】必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させているか。 【読む能力】近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。 【知識・理解】言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト（漢字、暗誦等）、作文・読書感想文・スピーチ、出席状況 等により総合的に評価します。
使用教材	教科書 「改訂版 現代文B」 第一学習社 副教材 「新版五訂カラー版新国語便覧」 第一学習社 「国語常識の総演習」 京都書房 「漢字の学習」 香川県高等学校国語教育研究会

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	世界史A	2	3年	看護科	全員

学習目標	古代文明の学習をきっかけにして世界史に興味・関心を持ち、大航海時代を契機に世界が一体化していくことを理解する。近現代史では、人権や自由が尊重される市民社会がいかにして形成されたかを学ぶとともに、欧米列強による植民地支配の実態と影響について考察する。また、二つの世界大戦の学習を通して、過去の失敗から学んだ教訓や財産を未来に生かすことで、歴史教育の意義を理解する。そして、異文化理解の重要性を認識し、主体的に世界平和に寄与する態度を養う。
授業計画	1学期 前近代の諸文明（東アジア、西アジア、ヨーロッパの文明など） 大航海時代の始まり アジア・アメリカへと進出するヨーロッパ 2学期 ヨーロッパとアメリカの諸革命 自由主義・ナショナリズムの進展 世界を分割する帝国主義 第一次大戦がもたらしたもの 3学期 経済危機から第二次世界大戦へ 冷たい戦争の時代 地球社会への歩み
学習方法と アドバイス	授業では、教科書・ノート・図説を活用して積極的に活動し、分からないところを質問し、歴史上の事件や人物について自分の考えを発表する。 復習やテスト前の学習に役立つように、丁寧なノート作りを心がける。 各自でテーマを設定し、図書館やタブレット端末等で調べたことをまとめ発表する。 ノートやプリントなどの提出物を、期限を守って提出する。 新聞やテレビのニュースに常に注意し、授業で学んだ事柄との関連を考える。
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。 【思考・判断・表現】世界史の事象から課題を見だし、その歴史的意義を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現しているか。 【資料活用の技能】世界史に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用しているか。 【知識・理解】世界が形成される過程や歴史事象を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みの姿勢、ノートやレポートの提出状況などで総合的に評価する。
使用教材	教科書 「明解 世界史A」 帝国書院 副読本 「ニューステージ 世界史詳覧」 浜島書店

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	化学	2	3年	看護科	全員

学習目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。
授業計画	1学期 第4編 有機化合物 ・第1章 有機化合物の分類と分析 ・第2章 脂肪族炭化水素 ・第3章 アルコールと関連化合物 2学期 第4編 有機化合物 ・第4章 芳香族化合物 第5編 高分子化合物 ・第1章 高分子化合物の性質 ・第2章 天然高分子化合物 3学期 第5編 高分子化合物 ・第3章 合成高分子化合物
学習方法と アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・授業を大切にしながら積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。 ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。 ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。
評価の観点と 方法	<p>「化学」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】自然の事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けているか。</p> <p>【思考・判断・表現】自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているか。</p> <p>【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けているか。</p> <p>【知識・理解】自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。</p> <p>以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。</p>
使用教材	教科書 「改訂版 化学」 数研出版 問題集 「三訂版 リードLightノート化学」 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	生物基礎	1	3年	看護科	全員

学習目標	看護を学習する上で必要な生物の知識、特に人体に関する基礎知識を重点的に習得する。そのことにより、人体や生命現象への関心を持ち、看護の知識・技能を深める。				
授業計画	1 学期 生命現象と物質 1 細胞と分子 2 遺伝情報の発現 2 学期 生殖と発生 1 染色体と遺伝 2 突然変異				
学習方法と アドバイス	・看護科の専門科目を通して、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・授業を大切にして積極的に取り組み、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。 ・学習プリント、視聴覚教材、実験・観察により理解を深める。				
評価の観点と 方法	「生物基礎」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】人体や生命現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】人体や生命現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、人体や生命現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】人体や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書「高等学校 改訂 新生物基礎」 第一学習社 問題集「標準セミナー 生物基礎」 第一学習社 オリジナル学習プリント				

考 査	学 習 計 画	反 省
1 学期期末		
2 学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
保健体育	体育	3	3年	看護科	全員

学習目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
授業計画	<p>4月 体づくり運動 5月～7月 体づくり運動 I期選択 器械運動・ダンス・陸上・バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 9月～11月 体育理論 II期選択 器械運動・ダンス・陸上・バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 体づくり運動 12月～3月 体づくり運動 III期選択 器械運動・ダンス・陸上・バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道</p>
学習方法とアドバイス	<p>選択種目については、教師の指導・助言を受けながら、各自・各グループで以下のような要領で自主的に学習を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分やグループの状態に適した目標の設定をおこなう。 ・その目標を達成するために、具体的な運動の課題を把握する。 ・その運動の課題を解決するために、合理的な練習計画を作成する。 ・計画にもとづいて実行した結果を評価し、つぎの課題や目標の修正に生かす。
評価の観点と方法	<p>【関心・意欲・態度】・・・種目の特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組んでいるか。個々の役割を自覚しその責任を果たし互いに協力して種目に取り組んでいるか。活動場所などの安全を確かめ、健康・安全に留意して種目に取り組んでいるか。 【思考・判断】・・・種目の問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 【運動の技能】・・・個人技能、集団技能など各技能のポイントをどのように習得しているか。 【知識・理解】・・・種目の特性や課題・合理的な練習の仕方を理解し、実践に生かそうとしているか。種目のルールや競技・審判の方法を十分理解するとともに、学習の中で効果的に活用することができるか。</p>
使用教材	<p>教科書 最新高等保健体育 大修館書店 副教材 ステップアップ高校スポーツ 大修館書店</p>

	種目（課題設定）	自己評価
1学期		
2学期		
3学期		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	2	3年	看護科	全員

学習目標	<p>1 英語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。</p> <p>2 英語を通して、多様なものの見方や考え方を理解し、自国のこと、諸外国のことを知り、広い視野から国際理解を深める。</p>
授業計画	<p>1学期</p> <p>Lesson 6 English Textbooks from Around the World</p> <p>Lesson 7 The Hayabusa Project</p> <p>2学期</p> <p>Lesson 8 The Origin of Santa Claus</p> <p>Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic</p> <p>*実際の授業は種々の都合によりこの通り行われなかったことがある。</p>
学習方法とアドバイス	<p>1 予習として教科書の本文を読み、分からない語句を辞書で調べておく。</p> <p>2 言語活動を通して内容の理解を深め、積極的に自分の考えや意見を発表する。</p> <p>3 本文の意味を理解した後に音読を行い、繰り返し英文を書いたり、声に出して読んだりする。</p> <p>4 新出の文法事項や語句について、参考書の関連箇所ですらに理解を深めるようにする。</p>
評価の観点と方法	<p>コミュニケーション英語Ⅱでは次の観点から評価をする。</p> <p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、授業に参加することができる。</p> <p>【外国語表現の能力】 情報や考えなどを、表現の方法を工夫しながら英語で話したり書いたりすることができる。</p> <p>【外国語理解の能力】 教科書を読んでその内容を理解することができる。</p> <p>【言語や文化についての知識・理解】 基本的な英文法や単語、文化背景などを理解している。</p> <p>以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。</p>
使用教材	<p>教科書 New ONE WORLD Communication II Revised Edition 教育出版</p> <p>副教材 New ONE WORLD Communication II Revised Edition Workbook 教育出版</p> <p>デュアルスコープ総合英語 5訂版 数研出版 英単語ターゲット1400 旺文社</p>

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
看護	基礎看護	3	3年	看護科	全員

学習目標	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させ、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、看護を適切に行うための能力と態度を育てる。				
授業計画	第2章 日常生活と看護	第2節 食生活の援助	第7 非経口栄養法		
		第3節 排泄の援助	第4 導尿		
	第3章 診療と看護	第1節 フィジカルアセスメント	第1 フィジカルアセスメントの概要		
		第2節 診察・検査と看護	第4 呼吸		
			第4 検体検査と看護		
			第5 診察・検査に関連する主な機器の取り扱い		
	第4章 看護活動の展開	第3節 看護の過程	第3 看護上の問題とその解決の過程		
			第4 看護過程の展開		
			第5 看護における研究の意義と活用		
			第6 継続看護		
学習方法とアドバイス	授業や校内実習に積極的に参加し、演習において実践する。 ノートや実習日誌の書き方を工夫して、学習効果を高める。				
評価の観点と方法	<p>「基礎看護」では以下の4つの観点から評価する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 看護の意義と保健・医療・福祉における役割について関心を持ち、看護の改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 看護の意義と保健・医療・福祉における役割について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、看護活動を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付け、その成果を的確に表現する。</p> <p>【技能】 日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理する。</p> <p>【知識・理解】 基礎看護に関する基礎的・基本的知識を身に付け、看護の意義と保健・医療・福祉における看護の意義や役割を理解している。</p>				
使用教材	<p>教科書：「基礎看護」教育出版株式会社</p> <p>副教材：「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」医学書院</p> <p>「ビジュアル基礎看護技術ガイド」照林社</p> <p>「ビジュアル臨床看護技術ガイド」照林社</p> <p>「検査値早わかりガイド」サイオ出版社</p> <p>「看護学生必修シリーズ実習記録の書き方が分かる看護過程展開ガイド」照林社</p> <p>「患者さんの情報収集ガイドブック」メジカフレッド社</p> <p>「系統看護学講座 在宅看護論」医学書院</p>				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
看護	疾病と看護	2	3年	看護科	全員

学習目標	看護を実践するために必要な疾病、治療および薬物に関する知識を習得させ、これらと疾病からの回復を促進させるための看護との関連について理解させる。				
授業計画	第4章 系統別疾患 第2節 各疾患の病態と治療 第5 血液・造血器疾患 第9 運動器疾患 第6 腎・泌尿器疾患 第7 女性生殖器疾患 第11 アレルギー疾患と膠原病 (第10 精神疾患)		(4月～12月)		
学習方法とアドバイス	授業に積極的に参加する。 1年次に習得した「人体と看護」、2年次に習得した「疾病と看護」や3年次に習得する「生活と看護」と関連して学習する。 ノートの取り方を工夫して、学習効果を高める。				
評価の観点と方法	「疾病と看護」では、以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 人体の構造と機能の理解を基礎に、疾病の成り立ちと回復の過程、薬物治療への援助について興味を持ち、意欲的に取り組む。 【思考・判断・表現】 看護の対象者を健康を損ねた者としてのみとらえるのではなく、疾病や障害を有している生活者としてとらえ、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化する。 【技能】 臨床で活用が可能な内容となるように、必要に応じて実験・実習をし、模型、標本、各種メディア教材等を利用するなどの活用ができる。 【知識・理解】 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解を深めることができる。 臨床検査の意義と目的及び主な検査の原理と方法の概要、患者に及ぼす影響などについて理解する。 臨床でみられる疾患の系統性や各疾患の病態と治療について理解する。				
使用教材	教科書：「疾病と看護」教育出版株式会社 副教材：「系統看護学講座 呼吸器」医学書院 「系統看護学講座 消化器」医学書院 「系統看護学講座 内分泌」医学書院 「系統看護学講座 病態生理学」医学書院				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
看護	生活と看護 社会保障制度と福祉編	1	3年	看護科	全員

学習目標	看護を実践するために必要な社会保障制度に関する知識を習得させ、社会生活における医療と保健及び福祉との関係について理解させる。
授業計画	第1章 社会保障と社会福祉 4・5月 第2章 保健医療福祉制度 6～9月 第3章 保健医療関係法規 10～12月 在宅看護 第1章 在宅看護の目ざすもの 第2章対象者の特徴 第3章在宅看護のしくみ (系統看護学講座「在宅看護論」使用)
学習方法と アドバイス	既習の「基礎看護」の内容との関連を重視して学習する。 副読本、学習プリント等の資料を予習復習に活用し、知識の定着を図る。 ノート、プリント等を提出期限内に必ず提出する。
評価の観点と 方法	「生活と看護」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 社会保障や社会福祉、制度および法律についての講義に興味を持ち精神看護に関する知識と技術を習得することに意欲的にとりこんでいるか。 【思考・判断・表現】 看護及び看護活動と関連の深い法規、保健医療福祉に関する基本的な施策や制度を取り上げ看護について思考を深めることができているか。 人間のライフサイクルの変化による健康生活への課題と社会への影響を考え、 【技能】 社会資源を有効に活用して援助するために基礎的・基本的な技術を身につけ、適切な援助の成果を適切に活用することができているか。 【知識・理解】 社会保障や社会福祉、制度および法律に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、看護活動における意義や役割を理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、授業に取り組む姿勢や提出物などで総合的に判断します。
使用教材	教科書：「文部科学省 生活と看護」

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
看護	成人看護	2	3年	看護科	全員

学習目標	成人の心身、生活、保健及び疾病について理解させ、成人の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的能力と態度を育てる。
授業計画	<p>第1章 外科患者の病態の基礎 第2章 外科的治療を支える分野 第3章 外科的治療の実際 第4章 救急看護の基礎</p> <p style="text-align: right;">(4月～7月1回50分×2×13回) (「系統看護学講座 臨床外科看護総論」使用)</p> <hr/> <p>第3章 機能障害と看護 <<各論編>></p> <ul style="list-style-type: none"> 第1節 循環機能障害と看護 第2節 呼吸機能障害と看護 第3節 栄養摂取・代謝障害と看護 第4節 内部環境調節障害と看護 第5節 生体防御機能障害と看護 第6節 感覚機能障害と看護 第7節 認知機能・コミュニケーション障害と看護 第8節 運動機能障害と看護 第9節 排泄機能障害と看護
学習方法と アドバイス	<p>授業に積極的に参加する。</p> <p>既習の「基礎看護」「人体と看護」「疾病と看護」「生活と看護」の学習を基礎として、「老年看護」「精神看護」「在宅看護」「母性看護」「小児看護」と関連させて学習する。</p> <p>ノートの取り方を工夫して、学習効果を高める。</p>
評価の観点と 方法	<p>「成人看護」では以下の4つの観点から評価する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 成人各期の対象への関心を高め、看護の展開に興味を持ち、意欲的に取り組む。</p> <p>【思考・判断・表現】 成人各期の成長・発達課題を考慮し、看護の対象を疾患や障害そのものではなく、疾病等により身体の様々な機能障害を有した生活者として、総合的に考え、判断できる。</p> <p>【技能】 成人の身体的・精神的・社会的特徴などを理解した上で、患者の健康レベルに応じた看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>【知識・理解】 疾病等により障害された機能別にそれがもたらす日常生活の制限や治療に関わる看護の基礎的な知識と技術について理解する。また、機能障害のある生活者の健康の保持増進、回復へ向けた看護の展開について理解を深める。</p>
使用教材	<p>教科書：「成人看護」「疾病と看護」文部科学省、</p> <p>副教材：「系統看護学講座 臨床外科看護総論」医学書院 「系統看護学講座 耳鼻咽喉 眼 皮膚 消化器 呼吸器 内分泌・代謝」医学書院、 「検査値早わかりガイド」医学芸術社 「実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド」照林社、</p>

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
看護	母性看護	1	3年	看護科	全員

学習目標	母性の特質、生活、保健及び疾病について理解させ、母性の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。
授業計画	<p>【4月から12月まで】（「系統看護学講座 母性看護学概論」ビデオ生命誕生使用）</p> <p>母子看護の基本となる概念 （母性とは、家族機能、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルプモーション、母性看護とは 母性看護における倫理、母子の健康と福祉：健やか親子 21）</p> <p>母子の健康と福祉 （母子保健統計、母性看護に関する組織と法律、母性看護の場と職種）</p> <p>人間の性と生殖（生殖器の形態と機能、月経周期と月経随伴症状・月経困難症、妊娠と胎児の性分化）</p> <p>女性のライフステージ各期における看護</p> <p>人工妊娠中絶と看護、喫煙女性の健康と看護、更年期の健康と看護、思春期の健康と看護、性感染症とその予防</p> <p>家族計画、避妊、性暴力を受けた女性に対する看護 （妊娠期・分娩・産褥と看護、新生児の生理と看護、異常と看護については専攻科で学習）</p>
学習方法とアドバイス	<p>既習の「疾病と看護」「生活と看護」「基礎看護」「成人看護」「老年看護」の内容と、並行して学ぶ「小児看護」の関連を重視して学習する。</p> <p>看護臨地実習の保育所実習を通して、母性の役割について、理解を深める。</p> <p>事前学習や事後学習によって理解を深めるとともに、基礎体温測定（3ヶ月継続）の実施によって知識の定着をはかる。</p> <p>レポートやノートの提出等は期限内に必ず提出する。</p>
評価の観点と方法	<p>「母性看護」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 母性に関する基本的な看護の方法について興味を持ち、意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>【思考・判断・表現】 母性に関する基本的な看護の知識と技術を活用し、創意工夫する能力を身につけているか。</p> <p>【技能】 母性看護に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、実習に向けて応用できるか。 講義や実習から得られた自分の考えをまとめ、適切に活用できているか。</p> <p>【知識・理解】 母性看護に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、看護の意義や役割を理解しているか。</p> <p>以上の観点から、定期考査を中心に、レポート等の提出物、実習や授業に取り組む姿勢などで総合的に判断します。</p>
使用教材	<p>教科書：「系統看護学講座 母性看護学概論」医学書院</p> <p>副読本：「みるみるナースィング 母性看護」医学評論社</p> <p>ビデオ生命誕生「小さな生命の詩」</p>

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
看護	小児看護	1	3年	看護科	全員

学習目標	小児の特質、生活、保健及び疾病について理解させ、小児の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。
授業計画	<p>【4月から12月まで】（「系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論」使用）</p> <p>小児看護の特徴と理念</p> <p>子どもの成長・発達</p> <p>子どもの栄養</p> <p>新生児・乳児</p> <p>幼児・学童</p> <p>思春期・青年期の子ども</p> <p>家族の特徴とアセスメント （小児のアセスメント、小児と家族を取り巻く社会は専攻科で学習する）</p>
学習方法と アドバイス	<p>既習の「疾病と看護」「生活と看護」「基礎看護」「成人看護」「老年看護」の内容との関連を重視して学習する。</p> <p>看護臨地実習の保育所実習を通して、小児の成長・発達と課題について、理解を深める。</p> <p>事前学習や事後学習によって理解を深めるとともに、離乳食試食、沐浴、小児の計測実習などによって知識の定着をはかる。</p> <p>レポートやノートの提出等は期限内に必ず提出する。</p>
評価の観点と 方法	<p>「小児看護」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 小児に関する基本的な看護の方法について興味を持ち、意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>【思考・判断・表現】 小児に関する基本的な看護の知識と技術を活用し、創意工夫する能力を身につけているか。</p> <p>【技能】 小児看護に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、実習に向けて応用できるか。 講義や実習から得られた自分の考えをまとめ、適切に活用できているか。</p> <p>【知識・理解】 小児看護に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、看護の意義や役割を理解しているか。</p> <p>以上の観点から、定期考査を中心に、レポート等の提出物、実習や授業に取り組む姿勢などで総合的に判断します。</p>
使用教材	<p>教科書：「系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院</p> <p>副読本：「みるみるナーシング：小児看護」医学評論社</p>

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
看護	保健統計	2	3年	看護科	全員

学習目標	データを収集して、その資料を整理・分析する考え方や分析方法の基礎を学び、看護の分野で情報および情報入手の手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの種類と尺度 (0.5) 2. 度数分布表とヒストグラム (1.5) 3. 代表値と散布度 (2) 4. 確率と確率分布 (1) 5. 正規分布と曲線下の面積 (2.5) 6. 母集団と標本の関係 (標本分布について 1.5) 7. 標本調査 (0.5) 8. 推定 (点推定と区間推定、平均値の区間推定、割合の区間推定 3) 9. 仮説検定 (仮説検定の手順と用語、母平均の検定、母比率の検定、2つの平均値の差の検定、クロス表の検定 5) 10. 相関分析と回帰分析 (2) 11. 統計データの図表による表示方法のまとめ (0.5) 12. () 内の数字は、授業のおおよその回数を示す。教材①のデータを利用し表計算ソフトを使って、実際に分析を行いながら、演習形式で授業を進めていく。予習は必要ないが、理解が確かでない場合は、友人に確かめたり、前回の質問をつぎの授業でしたりして、レポートを提出。返却したレポートを修正して復習しておけば、試験(考査)に合格できるであろう。統計学の考え方は、教材②の内容を中心にプリントを配布するので、授業中の説明を良く聞けば、身につけることができるであろう。統計学は、将来必ず大変役に立つものと確信する。 	
学習方法とアドバイス	講義から統計の原理を理解する。單元ごとに統計用ソフトを活用して演習を行い、レポートにまとめることにより、統計学の理論についての理解を深める。	
評価の観点と方法	<p>「保健統計」では以下の4つの観点から評価します。</p> <p>【関心・意欲・態度】 講義や演習内容について関心を持ち、向上を目指して、意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>【思考・判断・表現】 思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、表現する創造的な能力が身についているか。</p> <p>【技能】 基礎的・基本的な技術を身に付け、合理的に計画し、その技術を適切に活用しているか。</p> <p>【知識・理解】 基礎的・基本的な知識を身につけ、保健統計の意義や役割を理解しているか。</p> <p>以上の観点から、定期考査の結果、授業への取り組みと態度、レポートの内容等を総合的に判断します。</p>	
使用教材	<ol style="list-style-type: none"> ① 坪井博之著『このとおりやればすぐできるナースのためのデータ処理』技術評論社 2011年2月 ② 丸井英二編著『最新 保健学講座6 疫学/保健統計(第2版)』メヂカルフレンド社 平成25年1月 	

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期末 および 2学期末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
看護	看護臨地実習	7	3年	看護科	全員

学習目標	既に学習した知識と技術を臨床の場において活用し、体験的な学習を通して統合させる。そのことにより、知識・技術の定着を図るとともに看護職者としての自覚と責任をもった行動の重要性を認識させる。さらに、望ましい看護観を養う。				
授業計画	前期実習 7月に5日間 患者の理解及び疾患の理解 外来・手術室における看護の役割		保育所実習 10月～11月の期間(2日間) 乳幼時期における小児の発達を学ぶ		
	後期実習 1月～2月に24日間 慢性疾患患者の看護 リハビリテーションと看護 がん患者の看護 周手術期患者の看護(外科・整形外科) 退院指導 看護過程の展開(外科・整形外科病棟では看護問題・関連因子の抽出まで、 内科病棟では看護問題・関連因子の抽出、看護計画立案・実施・評価)				
学習方法と アドバイス	集中実習 (前期5日 3病院で実習 後期24日 4病院で実習 1グループ2名～4名) 保育所実習 2日間 35名 実習要項(本校看護科作成)に添って行う。				
評価の観点と 方法	「看護臨地実習」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 臨床看護に興味を持ち、不明な箇所や興味ある内容を進んで調べ、質問するなど意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 問題解決を目指して看護を行うために、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。また、行った看護について得られた結果を科学的に考察できるか。 【技能】 授業で学んだ知識や技術を身につけ、臨地実習において看護が実践できているか。 行った看護について自分の考えをまとめ、適切に活用できているか。 【知識・理解】 臨床看護に必要な知識・技術を習得し、理解しているか。 各実習場所で、実習要項にある評価項目について自己評価の後、看護科教師及び臨床指導者による評価を行います。 さらに、実習中の技術、態度、実習記録物、レポート等提出物、取り組む姿勢なども合わせ総合的に判断します。				
使用教材	「看護過程展開ガイド」照林社 「系統看護学講座 呼吸器 循環器 消化器 脳神経 内分泌・代謝 運動器 外科総論 基礎看護技術 I・II 老年看護学」医学書院 「ビジュアル基礎看護技術ガイド」 「ビジュアル臨床基礎看護技術ガイド」 「検査値早わかりガイド」照林社 「みるみる母性看護・小児看護」医学評論社 「ヒヤハットに学ぶ看護技術」医学書院				

取り組みの状況・自己評価・反省等	
前期	
後期	

3年 組 番	氏名
--------	----